2025年11月3日 発行
第9号

工務部会 こうむ NEWS

ＪＲ東労組(東日本旅客鉄道労働組合)
工　務　部　会
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-24-1
代々木総合事務所5階
NTT 03-5315-0941　JR 058-4112
発行人　杉本博輝　発行　編集委員会

２０２５年度 年末手当 満額勝ち取ろう！(ver.１)

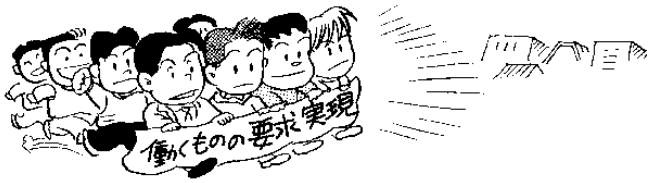
これが現場で働く私たちの声だ！！

５０名から回答がありました！(東労組３０名、未加入者２０名)

【労働実感(その１)】

全系統で慢性的な要員不足を抱えるなか「融合と連携」による更なる多能化や労働強化が進み「過去最高の働き度」との労働実感は変わりません。今夏の平均気温が観測史上最高を記録するなか、労働環境も厳しさを増しています。輸送障害や自然災害など異常時においても、全系統の組合員・社員が全力で対応してきました。みなさんの労働実感について、お聞きします。

○昨年よりも忙しくなった	３４名
○昨年と変わらない	１４名
○昨年よりも忙しくない	２名



要員不足

・要員不足のなか、通常業務や検査の他、締切期限の短い緊急点検、障害対応、除草伐採、融合と連携の取り組みなどが突発で入ってくるため、計画通りに業務が回らず、全くゆとりがなく体力的・精神的に忙しい
・要員不足により現場作業の日が多く、事務作業を進める時間の確保が難しい
人事異動のタイミングや頻度に職場ＯＪＴが追いつかず、新任者の育成に時間がかかっている
・職場人数も減り、行う業務内容に変化はないので一人当たりの負担は増えている
また、保安体制の変更により保安要員としての業務が格段に増えた
・昨年から３人が退職、人員不足は対応するためのマルチタスク化してきたため(超勤も増えている)
・産後パパ休暇で欠員が出ているが、既存の人員で采配しているので勤務に余裕がない
・管理者がやるべき業務を一般社員が行っている
・年々人が減っていくなか、これまでの担当者がやっていたことに加えて追加で業務をしている
また、社内外からのより精度の高い要求や期限が短くなったりしているため、ボリューム以外の部分を見ても格段に忙しくなっている

技術力・現場力の低下

・現場の手落ちへのフォローや職場内の知識不足による二度手間が増えている
・事象が発生するたびルールが増えていき作業するにも手間が増えた
・書類不備のミスによる手戻りも増え、チェックに掛ける時間の確保が出来ていない

・現業務サイクルへの慣れ、適応度が向上した
・国内大学制度で仕事メインから勉学メインとなった

安全で安心して働ける職場を未来に残すためにもＪＲ東労組に結集しよう！！